

■ 編集後記 ■

WEB JOURNAL『翻訳研究への招待』8号をお届けします。

この号には新進気鋭の研究者、秋草俊一郎さんの論考を収録することができました。6号に掲載された北代さんの書評をきっかけに、プロジェクト会合での講演が実現し、今回はその内容を論文にまとめていただきました。武田・ラッセル論文と2つのコメントは、「翻訳論文」(翻訳修士プログラムの研究論文に代わるオプションとしての長い翻訳の実作で、通常、何らかの分析を伴うもの)というテーマに初めて取り組んだものです。あまり知られていない「翻訳論文」の意義と実際を提起したもので、翻訳教育全般に重要な示唆を与えてくれるものと思います。

さて「翻訳研究育成プロジェクト」は「日本通訳翻訳学会研究プロジェクト」の一部として活動してきましたが、先ごろ理事会に提出した第2期一年間の活動の記録と第3期活動計画を以下に転載します。

第2期活動報告

2011年

10月29日 翻訳研究育成プロジェクト特別会合(Mona Baker氏を迎えて Workshop)

10月30日 第2期プロジェクト内容に関するメンバー会合

2012年

3月20日 Web Journal『翻訳研究への招待』7号完成

3月25日 翻訳研究育成プロジェクト会合 秋草俊一郎氏「ナボコフと翻訳——『オネーギン』英訳を中心に」

7月末 Web Journal『翻訳研究への招待』8号完成予定

第3期活動計画(2012年10月～2013年9月)

・昨年に引き続き、本プロジェクトは、日本における翻訳研究の育成、定着と充実に資するための諸活動を持続的に行うことを目的とする。

・具体的な活動は以下のようなものになる。

1) ウェブジャーナル『翻訳研究への招待』を継続発行する(年2回の発行を旨とする。特に院生に発表の場を提供したい。また英語版(abstracts)も作成し、活動内容を世界に発信する。このためサイトのデザインも刷新する。)

2) 研究会の開催: 年3回程度開催する。これには会員以外のゲストを招聘することもある。

3) 参加会員は『通訳翻訳研究』や内外のジャーナル、その他の媒体に寄稿したり、内外の会議で発表活動を行うなど、本プロジェクトの主旨に沿った活動を行う。

4) 中長期的活動目標として、「翻訳論アンソロジー現代日本編」、「翻訳論アンソロジー外国編」、「翻訳関連文献集成」、「翻訳論アンソロジー近代日本編英語版」などを考える。

・提携先プロジェクトは未定であるが、語学教育における訳読や翻訳の位置づけの問題など、通訳教育との接点もあるので、通訳教育関連プロジェクトが承認された場合には提携先候補となる。提携先と協議の上可能性を検討したい。

活動の趣旨に賛同される方は積極的にご参加ください。

次号(9号)は2月中の発行を予定しています。締め切りは1月末日です。多くの会員からの投稿をお待ちしています。

2012年7月31日

WEB JOURNAL『翻訳研究への招待』編集委員会

【追記】

83 ページの書評に誤記がありましたので、訂正しました。

ご指摘に感謝するとともにお詫び申し上げます。

2012年8月25日

WEB JOURNAL『翻訳研究への招待』編集委員会